

【報告】

令和七（2025）年度 垂水史談会総会開催

四月二十七日（日）、垂水市民館において、垂水史談会総会が開催されました。

会長あいさつ、来賓あいさつの後、「令和六年度年間経過報告及び決算報告、監査報告」「令和七年度年間計画及び予算案」などについて協議され、無事承認されました。

参加者からは、「垂水市には歴史資料館がないので、資料館をつくる陳情を出すべきではないか。」という意見が出されました。この件については、今後、理事会を開催し対応していく予定です。

次に、今回会長の職を退かれる

町田猛さんから、結成から長い歴史を歩んできた垂水史談会に対する熱い思いが語られました。町田会長のおじい様（町田彰さん）とお父様（町田秀実さん）は、百年近い歴史をほこる垂水史談会の創成期から参加されていたそうです。おじい様、お父様、そして猛さんと三代にわたって会の中心的な役割を務め活躍してこられたことに敬意を表し、さらにこれまで支えてこられた先輩方の思いも受け継いでいきたいと思っています。



最後に、町田会長からも、「歴史資料館の設立を史談会の今後の課題としてほしい。」と重いバトンを渡されました。そして、町田会長へは、新会長の瀬角龍平さんから、感謝状が渡されました。町田会長、長い間本当にご苦労さまでした。今後も、体調と相談しながら活動に参加していただけると嬉しいのです。

令和七（2025）年度役員

- | | |
|-------|---------------------------------|
| ○会長 | 瀬角龍平 |
| ○副会長 | 川崎あさ子 |
| ○事務局長 | 古場昌彦 |
| ○顧問 | 町田洋一 伊集院統 町田猛 |
| ○理事 | 山田義之 隈元信 中谷潤心 高嶺光佑
高櫻健一 新原清実 |
| ○監査 | 阿世知好子 前田和江 |

総会の後、『垂水市の近世・近代文化財 ―近年の調査を中心に―』と題して講演会が開催されました。講師は、同じ史談会員であり、垂水市文化財専門員の高嶺光佑さん。

近世・近代文化財としては、垂水島津家墓所の発掘調査から分かったことや海軍航空隊垂水基地の地下壕についての現状報告などがありました。写真などを多く提示してとても分かりやすい講演でした。

また、柗原貝塚が国指定の遺跡に認定されるくらい価値ある遺跡



であることもよく分かりました。（南九州最大規模の遺跡で、軽石製品や骨角器など特殊な遺物が大量に出土するなどほかに類をみないからだそうです。）知らないことがたくさん知れた楽しい1時間でした。

これからも、垂水の文化財について、どんどん発信していったほしいと思いました。

（古場昌彦）

◆会長就任にあたって

瀬角龍平

この度、町田猛前会長の後を受け、新しく会長として選任されました。重責に身の引き締まる思いがいたしますが、今後も垂水の歴史や文化などの研究を深めながら、さらに住民の方々への普及・啓発に努めます。また2年後は垂水史談会が結成されて100年です。大きな課題である『歴史民俗資料館』建設の実現に向けても取組みを進めたいと思います。

今年度は新たに4名の加入があつて37名の会員数となりましたが、役員ばかりでは活動が細ります。「行動する」垂水史談会としてみんなで頑張りましょう。

――まち歩き講座――

今年度も、市民講座で、「まち歩き講座」が開催されます。人気の講座で、昨年度は初日で定員超過。参加できなかった方が多数出てしまいました。しかし、安心してください。垂水史談会会員の方は、申し込みから漏れても参加できることになりました。

垂水のまちをブラブラ歩きながら、楽しく歴史や風土を学びませんか。健康づくりにもうってつけです。ぜひ一緒にしましょう。

第一回 六月二十二日（日） 午前9時市民館集合

※鹿児島神社や下宮周辺をブラブラします。

午前十一時か十一時半ごろ終了予定です。

「垂水の史跡・文化財」展①開催中

垂水市立図書館にて

五月一日（木）～三十一日（土）

「桜島の大正噴火展」、「写真で見えるなつかしの垂水」の展示は、大きな写真が目を引きます。

大正噴火の写真を見ると、あの噴火で桜島と大隅半島がくっついてしまった訳がよく分かりました！ そうだったのか！

また、「えー、かつて垂水に〇〇があったの？」と言ってしまいそうな写真やきつと「子どものころは、こうだったねえ。」と言いたくなるような懐かしい垂水の写真もありますよ。「城山から見た垂水の市街地」の写真は、「変わってないのは、国道と〇〇〇だけだあ。」と思いました。

合わせて、「発掘された文化財」や会員の高櫻健一氏作成の「垂水かるた」の展示もあります。期間中に、ぜひ図書館にてご覧ください。また、5名に限り、「垂水かるた」を差し上げます。アンケートにご協力ください。

（古場昌彦）



研究ノート

国鉄大隅線・海潟トンネル落盤事故の慰霊碑

海潟、協和小学校東の山の手

国鉄大隅線は昭和47（1982）年9月9日、海潟～国分間が開通し、志布志から国分までがつながりました。垂水の沿線には新城駅から大隅境駅まで計10の駅が作られ、通勤通学や貨客輸送に大きな期待を寄せられましたが、道路整備の進展とマイカ



ー普及などにより昭和62（1987）年3月14日に廃止となりました。
協和小学校の東側、マゼンハイに登っていく道路の傍らに海潟トンネル落盤事故の「慰霊碑」が建てられています。
大隅線の海潟～国分間が開通する約半年前、昭和47年2月22日に工事中のトンネルが突然落盤事故をおこして、6名の作業員が犠牲となりました。

（瀬角龍平）

【正面文章】

慰霊碑

昭和47年2月22日未明 国分線海潟～国分間の作業中突然の土砂崩壊により 故人6名この地に於いて殉職せらるここに慰霊碑を建立し永く諸霊のご冥福を祈念いたします

昭和47年7月吉日

松本建設株式会社

有志一同

【背面】

鹿児島県始良郡福山町福山

故 橋本鶴助

行年 51歳

鹿児島県垂水市二川高野

故 高野時義

行年 40歳

鹿児島県垂水市牛根境

故 松尾静雄

行年 37歳

鹿児島県垂水市牛根境

故 今福行男

行年 32歳

鹿児島県曾於郡財部町南俣

故 東丸政信

行年 40歳

鹿児島県垂水市二川高野

故 田村節男

行年 27歳



―たるみず春秋―

駆け足の犬の一生青き踏む

関屋祐子

春の萌え出た青草の中を散歩するのは晴れ晴れとして、とても気持ちがいいものです。この作品は散歩がてらに愛犬を連れてきたのでしよう。無心に野原を駆け回っています。

ところで、犬は人間よりも早く年を取り、駆け足のようない生だといいます。春が巡って来た喜びと、それだけ早く犬は一生を駆け抜けるのだという切なさがないまぜになります。

短い一生であるからこそ青草の中で思い切り跳ね回れと、犬への限らない愛情も感じられる作品です。

（季語…青き踏む・春）

（文章…瀬角龍平）